

令和6年能登半島地震の被災地支援の報告

石川県学童保育連絡協議会

2024年1月1日に「令和6年能登半島地震」が発生し、石川県内は甚大な被害に見舞われました。復旧・復興に向けた取り組みが進められていたなか、同年9月には豪雨による被害が発生しました。

亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。被災した地域では、まだまだ復旧・復興が進んでいないのが現状です。

【現状について】

被災した地域では、解体工事や仮設住宅の建設が進められています。2025年3月には仮設住宅が整う予定とのことですが、自宅避難をつづけていらっしゃる方もまだ多くいるようです。断水したままの地域もまだあります。

石川県内の主な交通手段は車で、金沢市から穴水町までは車で約2時間かかります。金沢市から穴水町への大動脈である「のと里山海道」は通行可能になりましたが、その先はまだ一般車両は通れないところがあります。

学校施設が使用できない地域では、他校へ通っている子どももいますし、通常の学校生活がおくれていないところもあります。

【学童保育について】

- ・能登地域は学童保育連絡協議会に加盟していないため、情報を直接把握することがむずかしい状態です。ほとんどの地域の学童保育は、公営や社会福祉法人が運営を担っており、施設は学校の空き教室や公共施設、児童館などです。
- ・空き教室を活用していた学童保育では、その学校の被災状況に日常が左右されます。
- ・輪島市は震災前には学童保育が12か所ありましたが、施設の損壊や指導員がいないな

どの事情から、2024年度は3か所のみが開所となっています。仮のような施設で保育を行っており、以前のように地域のなかでの再開に向けてなんらかの支援が必要です。

- ・穴水町では職員不足から保育が厳しいとのことですが、他所も指導員不足で、求められる支援に答えきれていないのが現状です。

【石川県学童保育連絡協議会の取り組みとして】

石川県学童保育連絡協議会では、被災した地域の学童保育へどのような支援が必要か、聞き取り調査やニーズ調査などを行い、どのような支援ができるかを検討してきました。

- ・震災直後には、志賀町の富来児童クラブから要望のあった、水やお菓子、使い捨て食器を送りました。
- ・金沢市内で被災した学童保育の改修工事に支援募金を活用させていただきました。
- ・能登町へは全国各地の学童保育関係者の協力も得て、夏休みのボランティア指導員派遣に取り組みました。ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。
- ・2024年9月の豪雨災害後には、ニーズのあった遊具や文具などを2市4町へ送りました。

これまで、全国各地の皆様から、支援募金やさまざまなご支援をいただき、御礼を申し上げます。まだまだ元のような学童保育生活ができるまでに時間がかかるようです。ひきつづき、募金活動などにも取り組み、情報を収集しつつ学童保育の再開に向けて、どのような支援ができるのかをみんなで考えてまいります。あわせて種々の課題解決、「地域連協」「各学童保育」の活動につなげていきたいと思っております。

今後も、皆様のご支援・ご協力をよろしく願いたします。

【全国連協をとってお寄せいただいた支援募金の収支報告】

* これまでに活用した募金：200万円

* 内訳：志賀町への支援物資（水・菓子他）	20万271円
能登地域の月刊誌購読料援助	8万6580円
金沢市の被災した学童保育の修繕費	24万9200円
「1.5次避難所」およびボランティア派遣交通費ほか	18万8072円
2市4町の学童保育へ遊具・文具の支援品代	127万5877円